

浜松の未来を育てる会 平成26年度事業報告書

【事業成果】

「浜松市子育て支援ひろば事業」は受託4年目、浜松市市民協働センターに引っ越しして2年目となり、街なかの子育て支援拠点として親しまれ、利用者は一日平均22.7組、総利用者は前年比1.5倍の延べ6,658人となった。無料駐車場のない環境ながら、子どもの健やかな成長のために徒歩や公共交通利用を呼び掛けたところ徒歩53%、バス電車14%をはじめ、車利用者27%を除く4人に3人が車以外で来場。車社会・浜松の乳幼児親子の生活スタイルに一石を投じている。

12月に行われた2期目3年間の事業プロポーザルでは、市民協働センターの場が使えなくなつたことから場所探しに奔走し、ようやく確保した近隣の常磐町の建物で委託を得ることができた。

他事業では、前年度に続き浜松市「ユニバーサルデザイン協働委託事業」「夏休み学生市民活動事業」を受託した。助成事業では、こども未来財団助成による子育て支援者研修、静岡県ふじのくにNPO活動基金ではふるさと納税を活用した寄付金集めによりHP改修事業を実施し、スタッフ自ら作成・更新できるHPが完成した。

自主事業として、夏休みにひろば前のギャラリーを使った子育てフリーマーケットも初開催した。



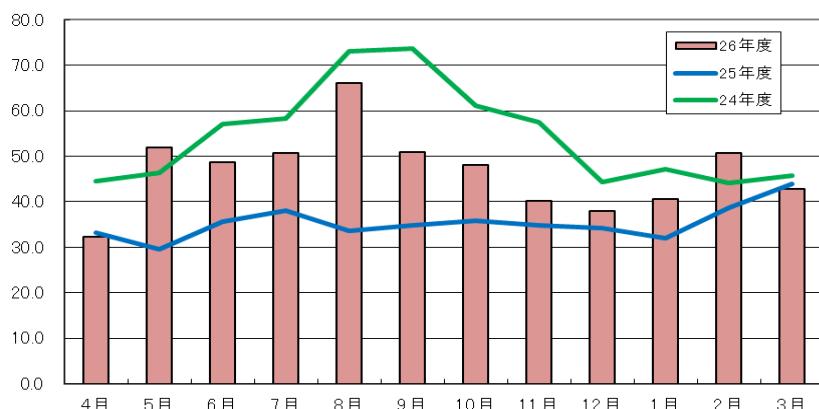
新規の加算事業「妊婦支援」の様

1. 浜松市子育て支援ひろば事業「ここみ広場」の成果

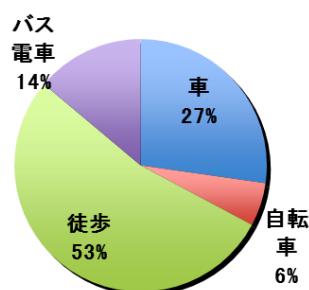
(1) 基本データ

①対象	0~3歳未満の乳幼児と保護者
②実施場所	浜松市中区中央1丁13番3号浜松市市民協働センター2階
③開催日時	火・水・金曜9:30~15:00（週3日・5時間）
④年間開催日数	ひろば143日（前年126日）
⑤年間利用者数	ひろば6,658人（前年4,455人） 出張ひろば含めた総利用者数 7,522人（同5,459人）
⑥一日当たり利用者数	ひろば22.7組46.8人（前年35.36人）
⑦従事者数	ひろば常時2人（スタッフ12人）

一日の平均利用者数



26年度来所方法

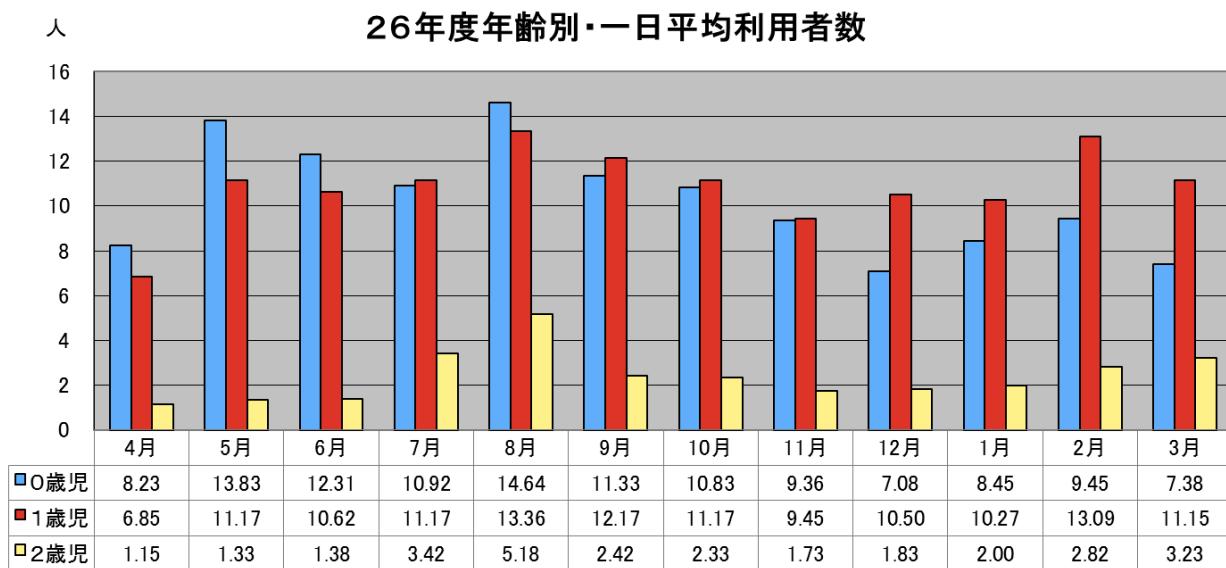


(2)事業の概要

【基本事業】

①子育て親子の交流の場の提供と交流の促進

乳児の親が落ち着いて過ごせる環境設定により、年間利用者の90%近くを0・1歳児が占めた。8月までは0歳児が多かったが、9月以降1歳児が逆転している。「0歳のひろば」を目標に支援の設定に努めていきたい。子どもの発達に応じてひろばから外遊びへと自然と移行できるよう、ブログや通信、ひろばでの声掛けなど多方面からの保護者啓発には引き続き力を入れている。



②子育て等に関する相談、援助の実施

スタッフは常に丁寧に傾聴しながら保護者の様子など言葉以外の情報もキャッチし、周囲の利用者ともつなげて、親の自己決定力や子育て力を育む支援を行った。金曜の発達相談をすすめて相談員に適切につなげ、要支援者を一人ももらさない体制づくりを心掛けた。

③地域の子育て関連情報の提供

通信は毎月1,000部程度発行。ブログは活動の予告・報告を中心に毎月約6～10本更新した。生活環境による発達の影響がみられるお子さんも多いため、スマホ・タブレットをはじめとする電子メディア接触の危険性や外遊びの重要性を継続して伝えた。

④子育ておよび子育て支援に関する講習等の実施

加算出張の仕様変更により外遊び関連の事業が減ったことから、講習に「おさんぽ」講座－写真右=を組み込み、読み聞かせボランティア「どおんどんの会」による読み聞かせ、「0歳集まれ」の3種を交代で行っている。



【加算事業…地域の子育て力を高める取組】

これまでの5事業のうち、ボランティア育成、異世代交流、父親支援が廃止となり、新規の「妊婦支

援」と継続の「発達支援」「出張」の3事業となった。新規の妊婦支援では助産師が月2回広場に訪れることが多かった。「助産師に相談したいが病院では忙しくて話を聞いてもらえないでうれしい」という声が多く、人気の事業となっている。

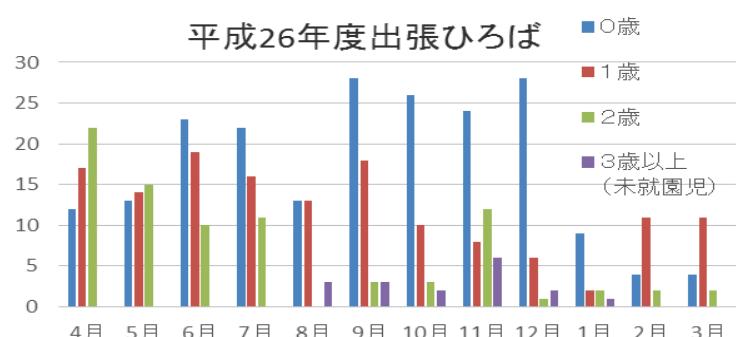
①出張ひろば

(火曜9時~14時45回、青少年の家)

利用登録114人

延べ利用者867人

※2時間から5時間の開催となり、12月までは利用者も多かったが1~3ヶ月は通常ひろば同様に利用者が伸びなかった。



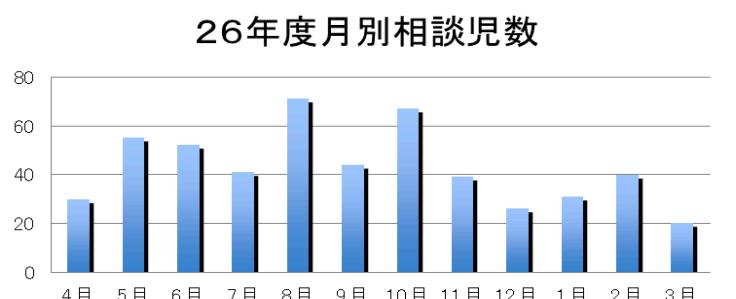
②発達支援

(金曜13時~15時40回)

利用登録38組

延べ利用者910人

※臨床心理士による発達相談と長谷先生の発達相談を月1回ずつ、残りを子育て相談とした。広場内での気軽な相談と高柳保育士の丁寧な支援によりリピーターも多く、気になる親子を適切に専門機関につなげることができた。



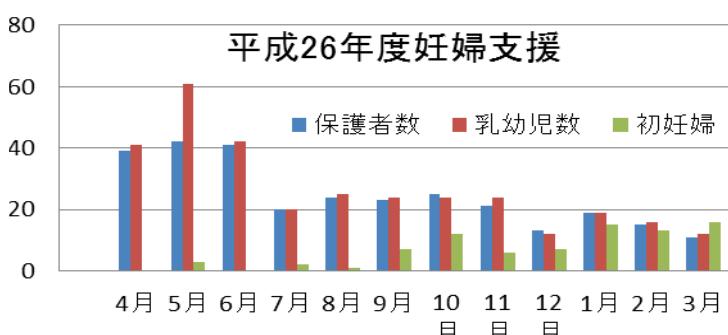
③妊婦支援

(隔週水曜10時~12時24回)

初妊婦登録53人

延べ82人

0歳児親子含む総利用者695人
※「対象:初妊婦と子連れでない妊婦」という設定で、広報や支援の設定が難しかったが、後半口コミや助産師の協力等により初妊婦の利用も目に見えて増えた。



2. その他の事業成果

(1)夏休み市民活動体験講座事業(浜松市市民協働課委託事業)

前年に続き、中高生にNPO等の市民活動を体験してもらうことを目的に浜松市が行う同事業の委託を受け、子育て支援ひろば事業内で学生の受け入れを行った。

(2)保育サポータースキルアップ研修「健やかな育ちを支援する一時預かり」

(こども未来財団子育て支援者小規模研修助成事業)

前年度に養成した託児者のフォローアップを兼ね、預かられる側の子どもがハッピーな託児を目指

に質の高い託児事業を行っている県外の2団体から講師を招き、その考え方と実践法を学んだ。子どもに無理の多い託児環境に悩んでいる支援者の悩みや事業アイディアの共有ができたほか、外遊びを取り入れた保育の実践も行い、好評を得た。

・第1回 7月14日(月) 参加19人

「外遊び・自然体験を取り入れた一時預かり事業」

講師:伊藤久美子氏(公園遊びの会「おるたん」代表)

・第2回 9月18日(木) 参加20人

「ベビーシッティング(託児室、訪問保育・産褥シッター)事業25年の実践」

講師:隈本ひさ氏(福岡・アリスチャイルドケアサービス代表)

・第3回 11月13日(木) 参加24人

「公園遊び支援と、外遊びを取り入れた預かりの演習」 講師:伊藤 久美子氏



(3)ユニバーサルデザイン子育て支援講座「国を超えたママ友をつくろう！」

(浜松市ユニバーサルデザイン協働委託事業)



在住外国人の多い浜松市で、赤ちゃんの頃から国を超えて一緒に育ちあう子育て仲間を作ることにより「心のユニバーサルデザイン」の実現を目指す事業として提案・採択され、全6回の「ノーバディーズパーフェクト」講座と成果発表会を行った。定員12人にに対し4倍を超える応募があり、中国2スチーダン1人を含む12人が参加した。ふだんの広場には来ない層の参加や、母親たちの潜在力が發揮される場面が多くみられた。新聞にも複数回にわたって取り上げられ、翌年度の子育て支援ひろば事業に「外国人支援」が誕生するきっかけの一つにもなった。

(4)HP改修による子育て支援の情報発信事業

(静岡県NPO活動基金団体助成事業)

新しいHPの作成サービス Jimdo を使って、スタッフ自らが更新できるHPを作成した。スタッフの中から有志3人が素材集めから構成まで検討し、PC講師による一日HP作成講座、SEO対策による成果分析も経て、自分たちの手によるHPを完成・稼働させている。ふるさと納税制度を活用した同基金により、スタッフからの寄付をもとに少ない費用で完成度の高いHPが出来上がった。



(5)講師派遣

前年度に続き入野市民協働センターより子育て支援講座の講師派遣依頼を受け、入野地区の子育て支援向上のために、0歳児の母親を対象にした4回講座を行った。外遊びの話などで新たなスタッフも講師に加わった。



(6)自主事業

◎秋のピザ祭り in 青少年の家(11月1日)



青少年の家の出張事業とからめ、父親が活躍できる「かまど」を使った事業を、スタッフ有志による別働隊で行った。
ピザ窯で手作りのピザ、かまどでは焼き芋と豚汁を作り、焼きマシュマロも楽しんだ。

◎子育てフリーマーケット(8月6日)

ひろば前のギャラリーを使った子育てフリーマーケットを企画し、初開催した。利用者や他団体から出店を募り、手作り食品から子供服、リユースなど多くの出品者が参加した。

広場利用者も家族連れで楽しみに訪れてみて回る姿が見られ、この日のひろば利用者は過去最高の65組137人を数えた。

出店では、スタッフの子どもたちもゲームや販売等で活躍した。



◎子育て支援者メーリングリスト「サロンネットワーク2」の管理

Yahoo！グループの終了を受け、福岡のひだまりの会が担当していた「子育てサロンネットワーク」の管理を受けた。

◎ひろば全協「地域子育て支援拠点研修」(10月19日)で大隅代表が事例発表

地域子育て支援拠点事業の4つの基本事業について、大隅和子代表がひろばの支援内容や環境構成について事例発表を行った。